**第4回　泉佐野丘陵地緑地 運営審議会**

日時：平成27年12月2日（水）15:00～17:00

場所：大阪府庁 大阪府公館

出席委員（敬称略）

大阪府立大学大学院　生命環境科学研究科　教授　増田昇（会長）

大阪府立大学大学院　生命環境科学研究科　教授　下村泰彦

うみべの森を育てる会　代表　西台幸子

元大阪府立大学大学院　教授　前中久行

大輪会事務局　大西　弘薫

大阪市立大学大学院環境都市工学科准教授　嘉名光市

泉佐野市都市整備部　部長　真瀬三智広

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　代表　松井弘

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　事務局長　大家清信

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　副代表　山本喬

◆欠席

大阪ガス株式会社　　特任研究員　弘本由香里

◆傍聴者　1名

◆概要

1. 開会　　　 15:00～

2. 協議案件 4件　 15:05〜

 　　①持込み型プログラムについて

　　②谷口池西側エリアについて

　　③向井池東側エリアについて

　　④企業の森活動について

3. 報告案件　4件　　 15:50〜16:50

①プログラム報告

　　②パークレンジャー養成講座について

　　③公園管理に対するアンケート調査について

　　④その他

4. 閉会　　　　　　17：00

＜**協議案件1：持込み型プログラムについて**＞

事務局より持込み型プログラムについて説明。

**増田会長**

・えんづくりプログラムの広報期間が短い。次回より改善する必要がある。

・申し込み方法について、先着順では応募媒体（HP・ＦＡＸ・電話）によって、不公平になる可能性がある。先着順ではなく、抽選を行う方がよい。

**西台委員**

・「うみべの森を育てる会」では、FAXなどで申込みを受付け、人気プログラムに限り参加者の抽選を行っている。

**増田会長**

・大阪木登り隊の安全対策は詳細に確認すべきである。条件付きでプログラムを実施していただくとことを検討すべきである。

・みどりの風による野生ランの展示は、展示期間を明確に設定すべきである。パークセンター内が展示で溢れることのないよう、ルールを設定にする必要がある。

**前中委員**

・花を長期間展示する場合は、1か月程度が妥当である。

**松井委員**

・「大阪木登り隊」については、ロープを使って木登りを行うと聞いている。木はクヌギを使うと思われる。

**前中委員**

・他公園でも木登りは行われているが、木にガードをするので、木への影響はないと聞いている。

**増田会長**

・大阪府立大学の学生（以下、府大生）の「天然プラネタリウム」にあるキャンプファイアーは、将来的には耐火煉瓦などを使ったピットを作ることを検討するとよい。常時オープンではなく、蓋掛け、鍵付きにしたらよい。夜間利用についてはルールをつくる必要がある。

**事務局**

・年間4回程度、シーズンごとに夜間開放デーを設けたいと考えている。

・天然プラネタリウムは郷の館周辺で行うと聞いている。照明が少ない場所であり、近隣への光害などは起こらないと考えている。

**山本委員**

・府大生は豚汁を作ると聞いている。パーククラブもサポートする予定である。

**事務局**

・キャンプファイアー用のピットは現在ないが、設置するとなれば消防関係手続きが必要となる。

**増田会長**

・キャンプファイアーは控えていただきたいが、夜間利用については許可したい。

・府大生の「わくわくうぉーく」は地元の観光ボランティアとの協働も視野に入れて、実施を検討していただきたい。

**真瀬委員**

・泉佐野市の観光協会が日根荘の歴史などをホームページ上にまとめているので、それらも参考にしていただきたい。

**前中委員**

・「大阪木登り隊」の使用樹木については厳選し、樹木の周辺環境についても踏み荒らされないよう、注意していただきたい。またインストラクターなどの資格があるはずなので、確認すべきである。

**増田会長**

・「野生ラン展示（展示期間）」、「大阪木登り隊（使用樹木）」、「天然プラネタリウム（キャンプファイヤー禁止）」については条件付きによる実施とし、それ以外のプログラムは提案通りの実施を許可する。

・審査表及び実施状況表に「パーククラブとの協働の必要性」欄を追加すべき。また、他のイベントの組み合わせや競合などを判断するため、審査表に「実施日の調整」欄を追加すべき。

＜**協議案件2：谷口池西側エリアについて**＞

事務局より谷口池西側エリアについて説明。

**増田会長**

・ヒメ、ゲンジ、ヘイケ3種のホタルが観察できる場所は貴重である。調査方法は十分に検討したい。

**前中委員**

・調査した後、図面に結果を反映させることが重要である。調査結果を蓄積することで、今後の整備計画を作成することが可能となる。

・証拠として、ホタルの標本を保管しておくことが重要。採取日、採取場所、採取者氏名を記載しておく。

**松井委員**

・天神川の調査は水利組合との調整が必要となるが、境界などの確認はとれているか。

**事務局**

・公園と川の境界は明確になっている。水利組合と調整を行い、調査計画を立てていく。

＜**協議案件3：向井池東側エリアについて**＞

事務局より向井池東側エリアについて説明。

**増田会長**

・湿地付近の浸水対策について。転圧が手間なため、山道では切土が多く、盛土は少ない。タコなどを用いて転圧するなど、試行すればよい。

・湿地以外の場所についても、植生回復を視野に入れて整備する必要がある。

**嘉名委員**

・眺望スポットの整備では、来園者が別の地点から見た時に「あそこに行くと面白そう」と思っていただけるように、灯篭など人の息遣いを感じられる仕掛けを考えながら整備するとよい。

**増田会長**

・休憩用ベンチなど、たたずまいを感じられるものが遠くから少し見えるよう、配置し、次への拠点への誘いになるのがうまい。ただし明らかに伐採したという印象を与えないよう、手を加えていく必要がある。

＜**協議案件4：企業の森活動について**＞

事務局より企業の森活動について説明。

**大西委員**

・現地体験会について、りそな銀行の東社長名で、「緑の都市賞」内閣総理大臣賞受賞通知と共に他企業への参加を募った。募集時期が少し遅く、他企業からの反応が少なかったため、今回（12月6日）はりそな銀行内部のみの参加となる。今後は他企業にも参加してほしいため、早期に次回の開催日を設定すべきである。

**下村委員**

・現地体験会において、この活動名称を考える機会を設けてもいいと思う。

**増田会長**

・企業のCSR担当部局への周知も図っていただきたい。

・日曜日に研修があり参加できない場合があるので、開催日程は早期に決定すべきである。

＜**報告案件1：プログラム活動報告（9月～10月）**＞

パーククラブおよび事務局より9～10月に行われたプログラムについて報告。

**松井委員**

・藤沢清流高校の研修旅行について、安全を確保するために4人の高校生に対して1人のパークレンジャーがサポートした。若いこともあり、悪ふざけをしてしまう学生への注意喚起が必要であった。

**増田会長**

・藤沢清流高校のような実績を作ると、小学生の環境学習なども受け入れやすくなる。今後も、積極的に学生たちの受け入れていただきたい。

＜**報告案件２：パークレンジャー養成講座について＞**

事務局よりパークレンジャー養成講座について報告。

**松井委員**

・8期生は活気と積極性がある。今後の活動参加についても期待したい。

＜**報告案件３：公園管理に対するアンケート調査について＞**

事務局より公園管理に対するアンケートについて報告。

**増田会長**

・200程度のサンプルを入手することができれば、正確な満足度を測ることができる。来園者へアンケートに協力していただけるよう、積極的な声掛けを行っていただきたい。

＜**報告案件４：その他＞**

**松井委員**

・向井池に大量のカワウが帰ってきている。生息エリアも広がってきている。専門家に現場を見ていただき、助言をいただきたい。

**真瀬委員**

・市の農林部局に、確認してみる。